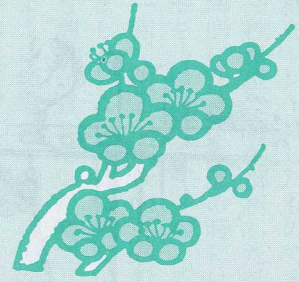


# 特集

## 卒業生、修了生を送る



弥生3月、別れの季節の特集第二弾！  
では、リルケの次の詩を別れの饒にするとしてしよう。

旗のように ぼくははるけさに取りまかれて  
来る風をぼくは予感する その風をぼくは生きねばならぬ  
下ではまだ 何ものも動かないのに  
家の扉(と)は静かにしまり 暖炉はひそやかに  
窓々もまだふるえず 埃は重く つもっている

その時すでに嵐を感じ 海のようにぼくは波立つ。  
ぼくはひろがり われとわが身の中へ落ちこみ  
はげしく吹きやられ われ ああただひとり  
大いなる嵐のただなかで。  
(リルケ形象詩集「予感」)

(川村二郎訳より)

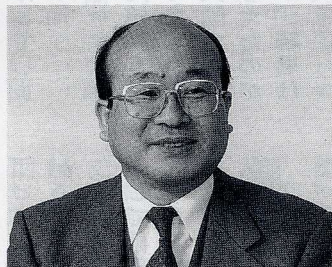
### 問われる理念と実践への期待

広島大学長 原 田 康 夫

皆さん、皆さんは間もなく本学を卒業、あるいは大学院修士課程を修了して社会に出られますが、皆さんの門出に際し、一言お祝いを申し上げます。

皆さんは、本学が二十三年間をかけて遂行した統合移転の完了を機に卒業されるわけで、この間には移転で苦労した学部も多くあり、在学中なにかと落ち着かず、ご迷惑をかけたことと思えます。私たちは今こうして、「東広島」を長い将来にわたるキャンパスの地として移転しました。

日本一広いキャンパスは、ここ数年めざましく整備されてきており、皆さんの誇るに足る大学として成長してきました。この記念すべき年に皆さんは卒業するのであります。



昨年は阪神淡路大震災に始まって、オウム事件や深刻な経済問題が続出するなど、あまりよい年ではありませんでした。しかし本年は「子(ね)」年で、世界経済においても少し明るさが見えるといわれ、景気も持ち直す気配がみられます。とはいえ、まだ就職の決まっていな人たちが多く、皆さんにとっても厳しい時期が続きます。けれども必ず機運は好転いたします。

す。それを信じて頑張ってもらいたいと思っております。

さて、広島大学は、建学の精神である「自由で平和な一つの大学」をめざし、統合移転を完了しました。誓いも新たに出発する広島大学の理念として、私たちは次の五原則を提示しました。

- 一、平和を希求する精神
- 二、新たな知の創造
- 三、豊かな人間性を培う教育
- 四、地域社会、国際社会との共存
- 五、絶えざる自己変革であります。

この五原則は、皆さんの前途にとっても大切な原則だと思えます。皆さんは広島大学で勉強した人たちです。人類の平和がいかに大切かを、広島大学の歴史から十分にくみとっている筈であります。

また、人類の未来のためには、新たな知の創造がなければならず、それがあつてはじめて輝かしい二十一世紀が開けてくるものと信じます。世界人類の理想、願望、そして未来の創造は、今ここに皆さんの肩にかかっているのです。それには高い知性を持ち、

大きな夢を描いて、人類のために自分に何ができるかを考え、一人一人が願望し実行せねばなりません。

豊かな人間性をもって、人のため、社会のため、自然へのため、地球のために何か役に立つ人間となることこそ、二十世紀の経済至上主義から脱却して、来たるべき心の時代の担い手となることができるのです。

また、二十一世紀は情報化社会です。すでに始まったインターネット、宇宙衛星による情報供給は、世界をより小さくすることでしょう。しかし、もつとも小さな単位は、個人と地域からです。地域へのコミュニケーション、そして国を越えての情報交流は、皆さんを本当の意味での国際人にするでしょう。

皆さんは、個人でありながら同時に全体であり、地球を守るかけがえのない存在であります。即ち、単なる一人ではなく、地域社会にも国際社会にも有機的にネットワークされている一人であり、この一人一人が、地域や国際社会に共存するだけでなく、一人一人が地球を守る担い手となるのです。それでなければ、これからの地球環境は守れません。

志を高く持って、流行に惑わされず、常に自己を磨き、目標に向かって日々精進する心でこれからの人生を歩み、この困難な時代を乗り切ってください。ことを期待します。

皆さん、卒業、修了、ほんとうにおめでとう!!